

財政収支(2018年1-7月)

(1)2018年1-7月における歳入は前年同期比18.1%増、税収は同19.5%増。

(2)歳出は前年同期比22.5%増。

(3)財政収支は450億リラの赤字(前年同期比85.0%増)。プライマリーバランスは30億リラの赤字(前年同期は84億リラの黒字)。

データ:財務省 単位:百万リラ

歳入・歳出内訳	2017年(A)	2018年(B)	増加率 ((B-A)/A)
歳入(a)	351,665	415,443	18.1%
税収	292,134	349,181	19.5%
所得税	62,148	77,675	25.0%
法人税	27,365	35,207	28.7%
付加価値税(国内及び輸入)	82,970	101,177	21.9%
特別消費税	73,203	79,995	9.3%
その他税収	46,448	55,127	18.7%
税外収入等	59,531	66,262	11.3%
歳出(b)	375,975	460,404	22.5%
人件費	95,684	116,198	21.4%
物品及びサービスの購入	31,335	36,931	17.9%
経常移転	161,313	183,789	13.9%
資本支出	25,401	40,601	59.8%
支払利子(c)	32,752	41,950	28.1%
その他歳出	29,490	40,935	38.8%
財政収支(a-b)	▲ 24,310	▲ 44,962	▲ 85.0%
基礎的財政収支(a-(b-c))	8,442	▲ 3,011	▲ 135.7%

経常収支(2018年1-6月)

(1)2018年1-6月の経常収支は、前年同期比46.7%減少し、312億ドルの赤字。

(2)貿易収支は前年同期比48.8%減少、旅行収支は同34.4%の増加。

データ:中央銀行 単位:百万ドル

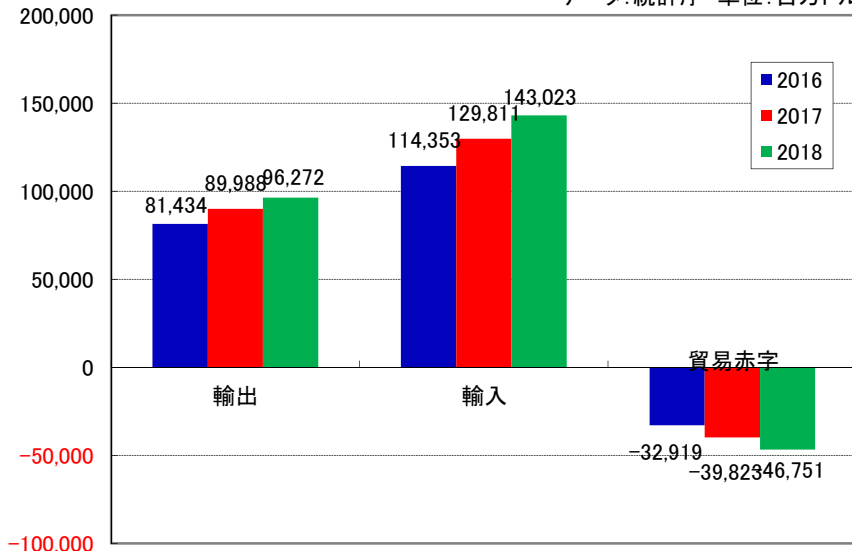
内訳	2017年(A)	2018年(B)	増加率 ((B-A)/A)
経常収支	▲ 21,298	▲ 31,247	▲ 46.7%
貿易収支(物品)	▲ 22,582	▲ 33,599	▲ 48.8%
サービス収支	5,645	8,226	45.7%
旅行収支	5,308	7,135	34.4%
その他サービス収支	337	1,091	223.7%
第1次所得収支	▲ 5,503	▲ 6,050	▲ 9.9%
第2次所得収支	1,142	176	▲ 84.6%
労働者送金	235	167	▲ 28.9%
その他第2次所得収支	907	9	▲ 99.0%
資本移転等収支	1	31	3000.0%
金融収支	▲ 26,960	▲ 22,894	15.1%
直接投資	▲ 3,367	▲ 2,862	15.0%
証券投資	▲ 17,467	▲ 79	99.5%
その他投資	▲ 3,726	▲ 12,194	▲ 227.3%
外貨準備	▲ 2,400	▲ 7,759	▲ 223.3%
誤差脱漏	▲ 5,663	8,322	247.0%

貿易収支(2018年1-7月)

(1)2018年1-7月の輸出額は963億ドル(前年同期比7.0%増)、輸入額は1430億ドル(同10.2%増)となり、この結果、貿易収支は468億ドルの赤字(同17.4%赤字拡大)となった。

(2)2018年1-7月の輸出額におけるEU向け輸出の占める割合は51.0%(前年46.3%)、輸入額におけるEUからの輸入の占める割合は37.1%(同35.5%)となっている。

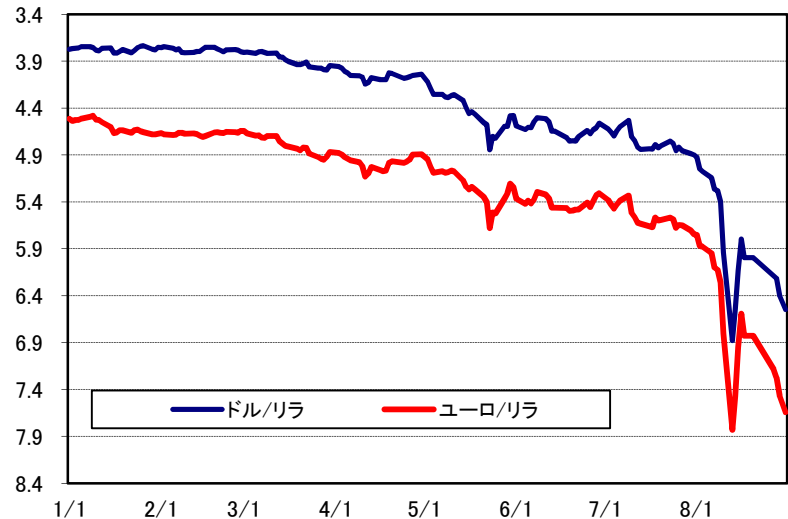
データ:統計庁 単位:百万ドル



為替(8月)

1日の米国によるトルコ2閣僚への制裁発表、以後米トルコ関係緊張化に加え、当局が有効な為替対策を打ち出さなかったため、リラが連日急落。10日には1ドル=6リラを割り込み、13日には、1ドル=7リラ突破。終値も最安値(1ドル=6.8798リラ)更新。13日の中銀及び銀行監督当局の措置を好感し、若干持ち直したものの、再び下落。8月31日時点で1ドル=約6.55リラ。

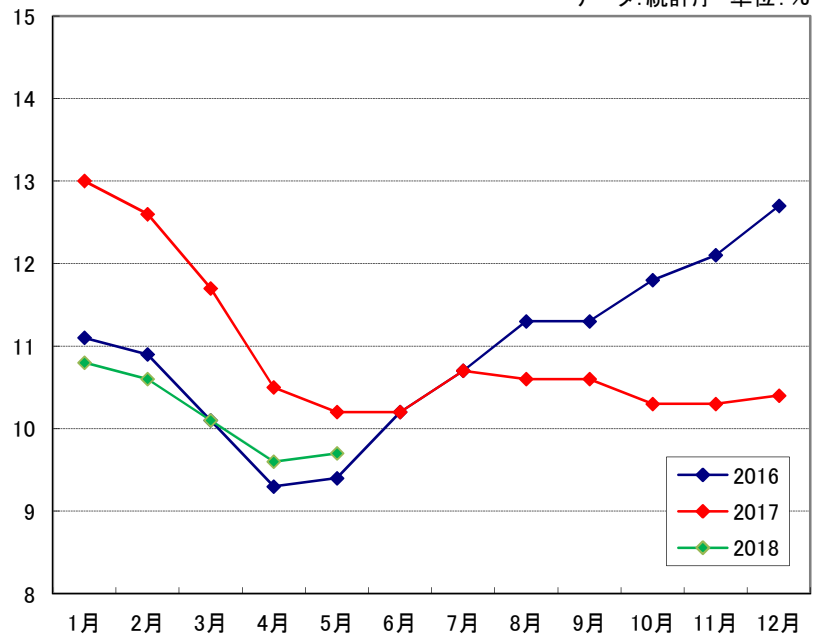
データ:中央銀行 単位:1ドル=リラ、1ユーロ=リラ



失業率(5月)

(1)2018年5月の失業率は、9.7%。前年同月から0.5ポイントの下落、前月から0.1ポイントの上昇。
 (2)労働力人口は3,227万人、就労者数は2,914万人、失業者数は314万人。
 (3)男性の失業率は8.4%、女性は12.4%。若年層(15-24歳)の失業率は17.8%となっている。

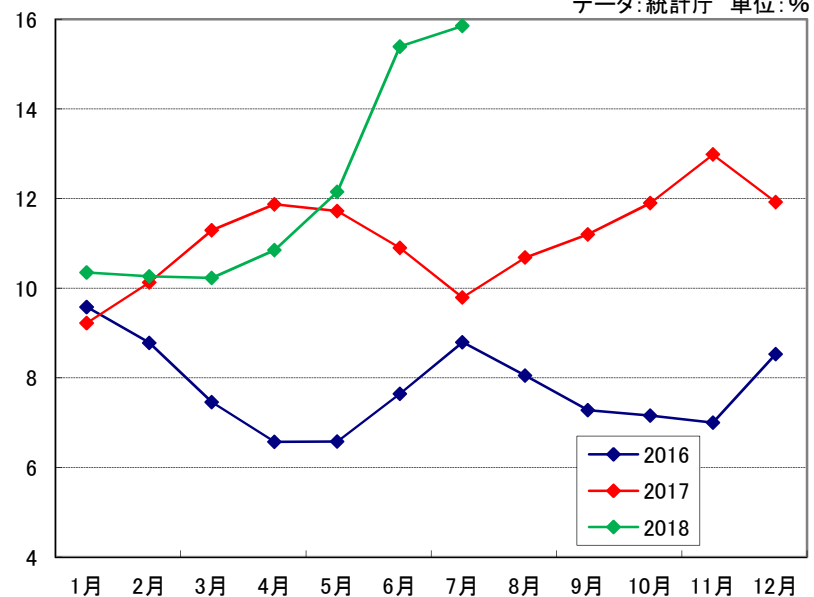
データ:統計庁 単位:%



物価上昇率(7月)

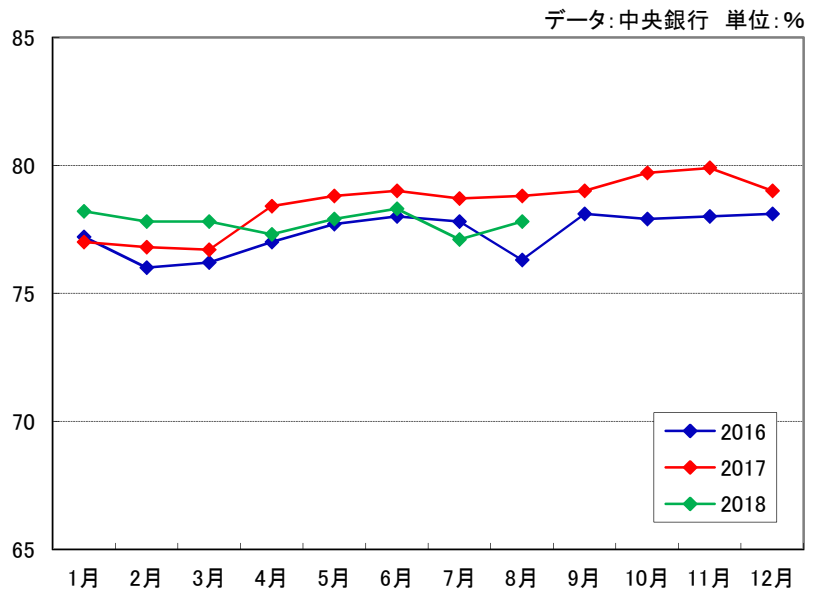
(1)2018年7月の消費者物価は前月比0.55%増、前年比15.85%の上昇。
 (2)分野別に見ると、前月比で最も上昇したのはホテル・レストランで2.26%。前年比で最も上昇したのは運輸で24.21%。
 (3)本年末の中銀見通しは13.4%(7月のインフレレポート)。
 (4)国内生産者物価指数は前月比1.77%増、前年比25.00%増となった。

データ:統計庁 単位:%



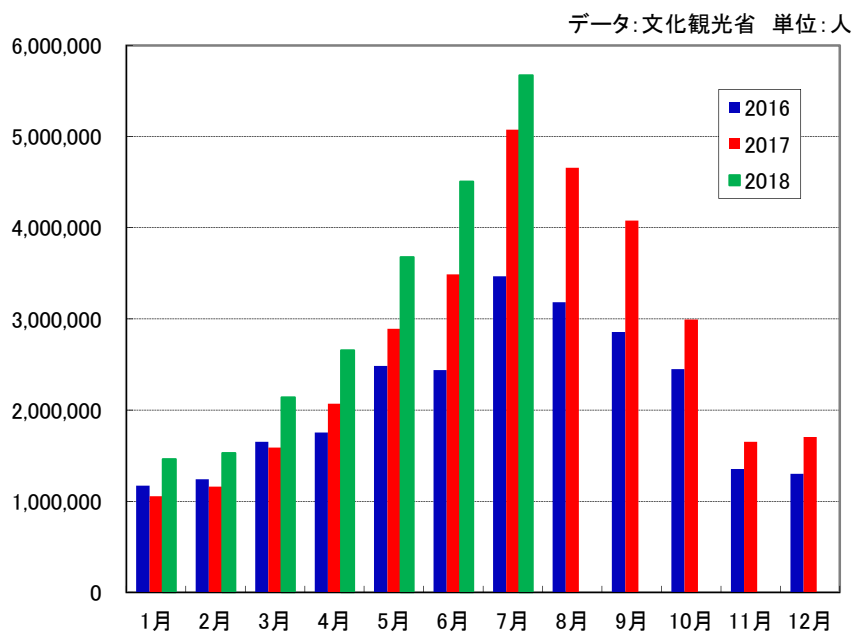
設備稼働率(8月)

(1)2018年8月の設備稼働率は77.8%となり、前月から0.7ポイント増加。前年同月からは1.0ポイント下落となった。
 (2)製造業の分野別では、石炭・石油精製品(88.4%)が最も稼働率が高く、革及び革関連製品(59.7%)が最も低い稼働率であった。



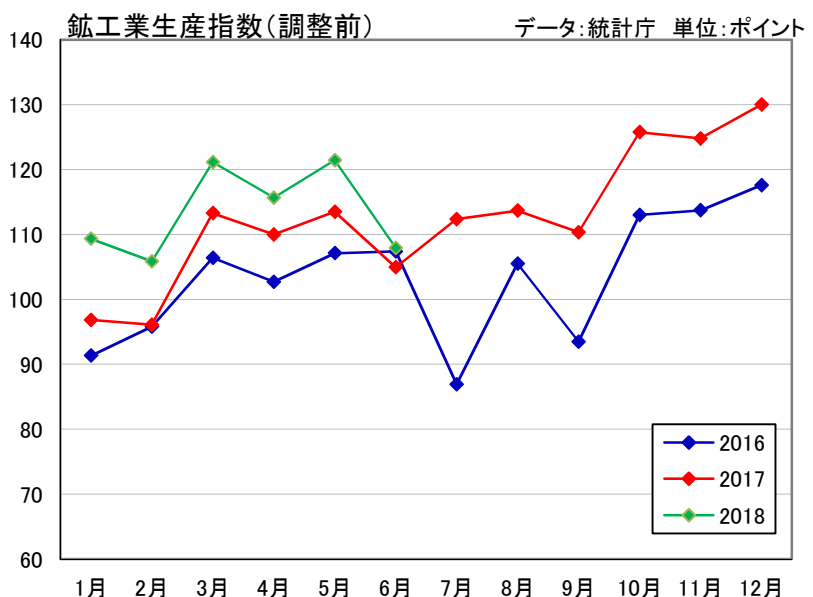
外国人訪問者数(7月)

(1)2018年7月にトルコを訪れた外国人訪問者は567万人で、前年同月比11.7%増。
 (2)訪問者数を国別に見るとロシアからが最も多く90万人で全体の15.8%を占める。以下、ドイツ(76.1万人)、英国(35.5万人)となっている。
 (3)なお、日本からの訪問者は6,902人(前年同月比46.3%増)となった。



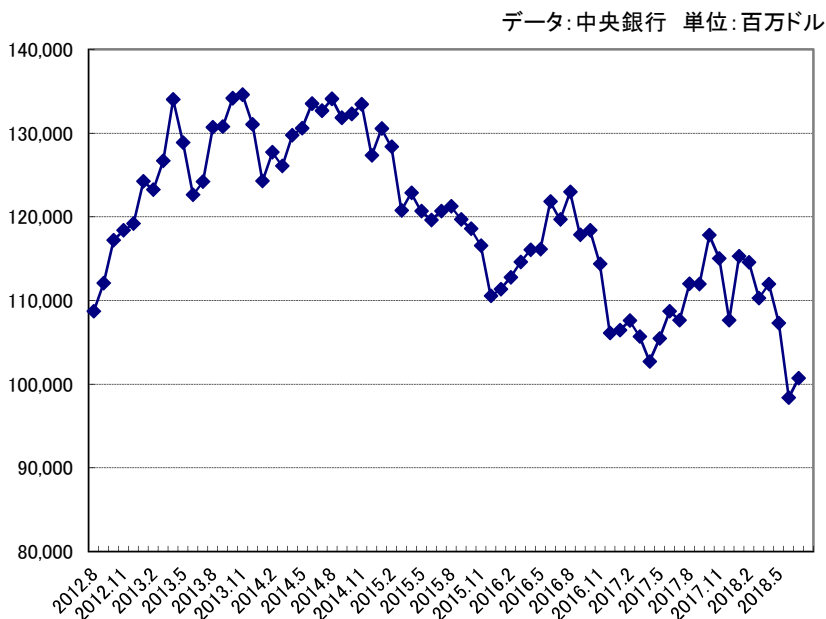
鉱工業生産指数(6月)

(1)2018年6月期の鉱工業生産指数(調整前)は107.9ポイント(2015年=100)となり、前年同月比(日数調整後)は3.2%増、前月比(季節及び日数調整後)は2.0%減。
 (2)分野別では、エネルギーが前月比1.6%増。



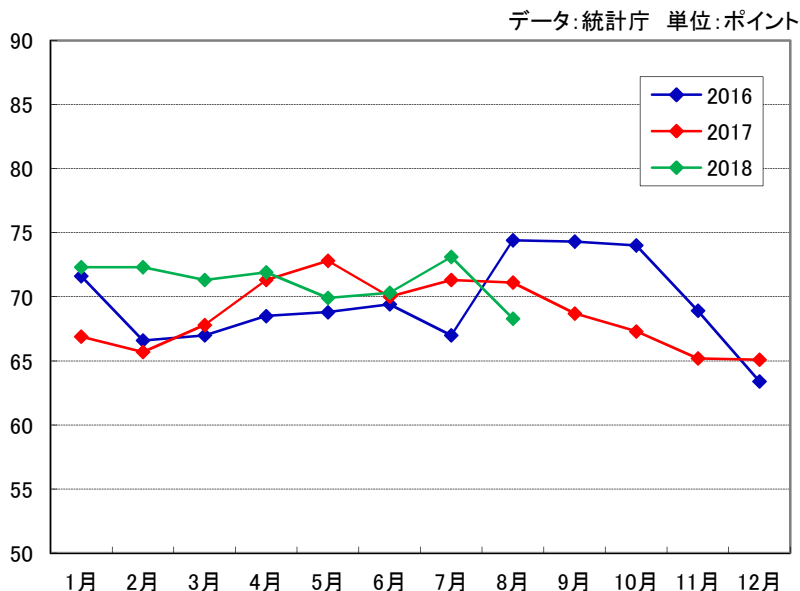
外貨準備高(7月)

(1)2018年7月時点での中央銀行の外貨準備高(金を含む)は1,007億ドルとなった。
 (2)6年ぶりに1,000億ドルを下回った6月から、若干持ち直した。



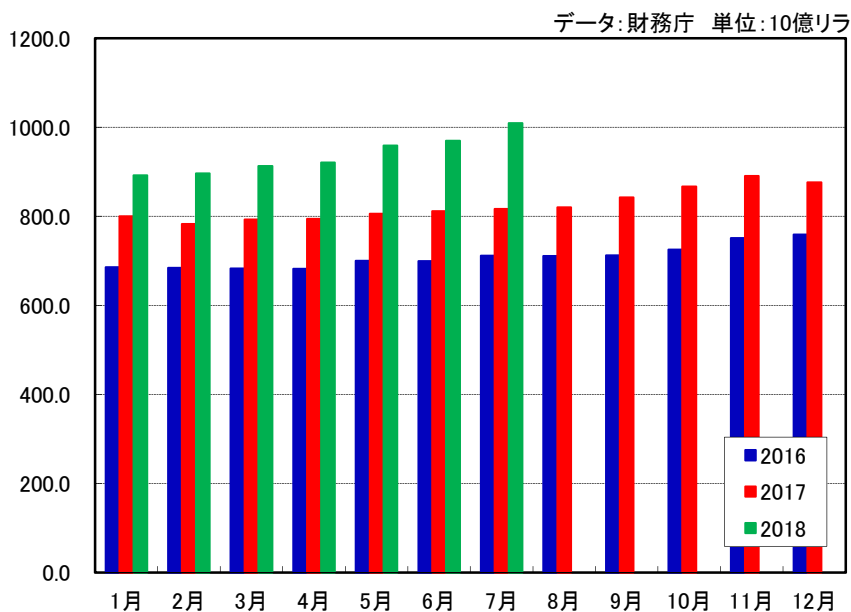
消費者信頼感指数(8月)

(1)2018年8月の消費者信頼感指数は前月から4.8ポイント低下し68.3ポイントとなった。
 (2)内訳では、家計における財政状況見通しが6.5ポイント低下の85.5ポイント、一般経済見通しが8ポイント低下の88.3ポイントとなった。



中央政府債務残高(7月)

(1)2018年7月時点での中央政府債務残高は1兆10億リラとなり、前年同期比23.6%増加した。なお、前月比では4.1%の増加となった。
 (2)また、国内債務比率と自国通貨債務比率は共に56.6%となっている(2017年末61.1%)。
 (3)なお、円建て外債(サムライ債)の発行により、債務残高のうち円は3.0%で、外貨ではドル、ユーロに次ぐ地位を占めている。



※本資料は、当館がトルコ政府発表資料を取り纏めた参考資料であり、当館がその正確性等を保証するものではありません。